

小学校低学年の部

最優秀賞

おばあちゃんとわたし

三本木小学校 三年 阿部由依

わたしがねつを出した時、三時間かけて来てくれた。わたしがねている時、さむくないか、あせをかいていないか、夜中見てくれる。おばあちゃんが、かいだんを上る時、わたしは手をかしていっしょに上る。おばあちゃんが、これからできなくなっていくことを、どんどん大きくなっていくわたしが手つだいたい。

講評

由依さんのために、三時間もかけて来てくれたおばあちゃん。夜中もつきつきりで看病してくれた、おばあちゃんに対する感謝が、「今度はわたしが」という強い気持ちを持たせてくれたのですね。おばあちゃんから若い由依さんにバトンが繋がったことが感じられて、温かい気持ちになりました。

優秀賞

シーユーアントン

北園小学校 一年 櫻庭史陽

なつやすみに であったアントン  
がいこくのひとだから はなせるかなって  
ドキドキしたよ  
アントンはやさしいえがおで にっこり  
ぼくもにっこり  
インドネシアから きたんだって  
とおいくにだけど にっこりしたら  
こころが ふんわり ちかくなったよ  
またあいたいなアントン

講評

国はちがっても、やさしい笑顔は、相手にしっかりと通じるものなのですね。インドネシアから来たアントンと史陽くんは、やさしい笑顔の「にっこり」でつながりましたね。こうやって人が分かり合えることを、史陽くんに教えてもらいました。





## たすけあい

西小学校 二年 蛭名莉子  
えび な り こ

ハマーは、おばあちゃんの家にいる犬。  
十九さいで人間だと九十六さい。  
おさんぽもグイグイしないで、  
ゆっくり歩いてくれた。  
でも、もうおさんぽに、行けなくなった。  
オジイちゃんになって  
目がみえなくなっていた。  
小さいころハマーは、  
わたしをみまもってたすけてくれたから、  
こんどは わたしがたすけてあげるね。

### 講評

としを取って、少しずつ弱ってきた犬のハマー。元気だった時は、「私」を見守り助けてくれたのに。グイグイしないで、ゆっくり歩くオジイちゃんになったハマーを、莉子さんが可愛がり大切にしている気持ちが伝わってきます。おさんぽに行けなくなっても、莉子さんに寄り添ってもらえて、ハマーはとっても幸せだと思います。



## 太田のおじいちゃん

北園小学校 二年 太田有咲  
おお た あり さ

太田のおじいちゃんは、  
いつもやさしい  
外でいっぱいあそんでくれるし、  
じてんしゃで  
いろんなところにつれていってくれる  
竹でつくってくれたうんていや  
木でつくってくれたブランコで  
あそぶのが わたしは、だいすき  
おじいちゃんがいるだけでうれしい  
またおじいちゃんちに行くので  
たくさんあそぼうね



優良賞

大好きなじじちゃん

西小学校 三年 戸<sup>と</sup> 舘<sup>だて</sup> 侑<sup>ゆう</sup> 慎<sup>しん</sup>

いろんなことを知っていて

ぼくになんでも教えてくれるじじちゃん

ラジコンが大好きなじじちゃん

本が大好きなじじちゃん

水泳がとく意なじじちゃん

スキーが上手なじじちゃん

そんなじじちゃんが病気になるた

「じじちゃんの病気が治りますように」

いっぱいいっぱいおねがいたよ

早く良くなって

またぼくにたくさんのおねがいを教えてね

佳作

きゅうりのしゅうかく

北園小学校 二年 薄<sup>うす</sup> 井<sup>い</sup> 俐<sup>り</sup> 人<sup>ひと</sup>

ちくちくと

ぼくのゆびにささるとげ

おじいちゃんと兄ちゃんと

おいしそうなきゅうりをとったよ。

「どうやってとるの?」と

きいたぼく…

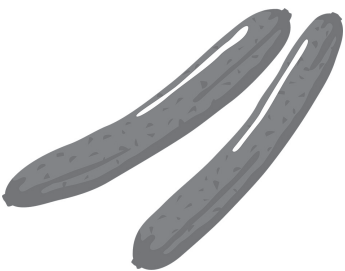
「右手でねもともって

左手でもってまわしながらとるんだよ。」と

おしえてくれたおじいちゃん。

とってもおいしかったよ。

ありがとうおじいちゃん。



佳作

## はずしてつながる

南小学校 一年 石川 倫太郎

ゆらゆら とうろのくつきが  
ゆらゆら ぼくはプールで  
ゆらゆらゆらゆら ざぶざぶざぶざぶ  
うまくなって おかあさんが みんなが  
よろこんでくれたらいいなって  
まわりをみたら みんながにこにこ  
うれしくなって エネルギーがわいてくる  
みんなのにこにこのおくちが  
ぼくにきもちをつたえる  
うれしいな  
なんだかひさびさ



佳作

## ばばのたから物

三本木小学校 三年 橋本 啓

夏休みの朝  
ばばは早くに家を出る  
ぼくもそれについていく  
すると、にこにこと笑顔のばば  
チクチクのキュウリ  
ピカピカ光るトマト  
つやつやのピーマン  
まるでほうせきのような  
ばばのたからもの  
もちろんおいしくて  
だれにも負けない  
やさしい味がした



小学校高学年の部

最優秀賞

寒い朝のおくりもの

東小学校 五年 村井利彩

寒い朝でも 私たちのために立っている  
私たちを見守ってくれている  
スクールサポーターさん

スクールサポーターさんのほうが  
寒くて大変なはずなのに  
やさしい笑顔で

「寒いね。」と言ってホッカイロをくれた  
何よりもあたたかいおくり物は  
スクールサポーターさんの思いやりの心

講評

「あつ、あのおばさんだな。」だれにでもやさしく親切で笑顔を  
たやさず、吹雪の日でもかんかん照りの日でも、みんなを見守つ  
てくれていますね。ホッカイロよりもあたたかかったもの、それ  
は「心」だったんですね。それを感じとった利彩さんの「心」もす  
てきです。

優秀賞

ウォーキング

西小学校 五年 三浦采弥

私とじいじがウォーキング  
じいじが、おくれる どうしよう  
私が歩はばをせまくした  
じいじが、がんばり おくれる私  
じいじがつかれたふりをして  
私はじいじに追いついた  
いつもたがいを思いやり、まだまだ続く  
ウォーキング

講評

なんとほほえましい光景でしょう。日曜日の夕方でしょうか、  
二人のかげぼうしが、近づいたり離れたたり、時には重なりあつた  
りしています。ことばはいらなんでしょうね。采弥さんとじいじ  
は「思いやりの心」で強く結ばれているんだよね。







## 二分の一人式

藤坂小学校 四年 小山田 夏那

「これ、ななが着たんだよ。」

お母さんが言った。

わたしが生まれた時に着ていたうぶ着を見せってくれた。

「え？これ夏那が着ていたの？」

わたしが言った。

うぶ着とわたしをくらべていたお母さんが言った。

「そうだよ。六日で十才になるんだね。」

お母さんに言った。

「今日までずっと育ててくれてありがとう。」

### 講評

「二分の一人式」。おもしろい題ですね。ていねいに取っておいたうぶ着を広げながら、十年間のおもいにひたっているお母さんの姿が目にかびます。「小さな小さなうぶ着」を通して、夏那さんとお母さんとの強いむすびつきが感じられました。



## 私の大親友

藤坂小学校 六年 松田 利菜

いつか君のようになりたい。

君は走るの速くなくて、

算数も苦手かもしれない。

けれどそんなことは

気にしていないよ。

最初に話しかけてくれた君がいいの。

そのやさしさが好きなんだよ。

### 講評

最初に話しかけられて本当にうれしかったんだね。どんなことばだったのでしょうか。へいほんでもいい、欠点があってもいい、人に「やさしさ」をどける人になりたいという利菜さんの強い思いが感じられました。





## ぼくのひいおばあちゃん

南小学校 五年 一本松 拓真  
いっぽんまつ たくま

「よく来たね。」

いつも笑顔でむかえてくれる

ひいおばあちゃん

今年で八十九才になる

いつも一緒にパズルをしてくれる

しわくちなな手 優しいまなざし

少しこしも曲がってきた

ぼくより七十八年も長く生きている すっぴい

何でも手作りする

ボケ防止なんて言いながら

あと何年一緒にいれるだろうか

ひいおばあちゃんと過ごす時間

大切にしたい



## オモイヤリ

南小学校 六年 久保 来慳  
くほ らいけん

オモイヤリってなんだろう

相手に気を配ること？

でもただ気を配るだけ？

相手は違う事をしてほしいかもしれない

放っておいてほしいかもしれない

無理して気を配ればいいのか

ちがうよね

やっぱり自分ができる範囲で親切すること

大切だよ

オモイヤリを少しだけ分かった気がする

これからも少しずつ

「思いやり」を学んでいきたいな

優良賞

たすけあい

南小学校 六年 音道結紀

だれかが困っている時  
誰かが苦しんでいる時  
友達でなくても  
知っている人でなくても  
たすけてあげましょう  
たすけてた時  
相手も良い気持ち  
私も良い気持ち  
きっとそう思うでしょう



優良賞

ブラックベリー

高清水小学校 六年 柿野ひまり

母とつんだ ブラックベリー  
黒いまるいむらさき色  
つるつるしたまあるいつぶが  
光ってる  
見つめてる  
私の手でつむ ブラックベリー  
緑でおおわれた箱をあけると  
枝についた 宝石が  
「私を取って」と ささやいた  
私の手の中 ブラックベリー  
口に入れると 一つぶにつまった 幸せ  
はじけたら 広がる広がる 幸せが  
甘い幸せ とけこんだ



## 優良賞

### 大切な仲間

ちとせ小学校 六年 佐々木 湧来

バスケット部の僕 僕はこの仲間が大好きだ。  
一緒にプレーして  
時には苦しい練習も 辛い練習も  
皆とだったら乗りこえられる。  
そして試合に勝った時  
皆と思いきり喜び合う  
サイコーの仲間達  
ベンチで応援してくれる メンバー。  
試合の度に送迎、  
応援で僕達を 支えてくれる保護者  
皆の応援を胸に 引退まで  
この仲間为目标めざして  
がんばるぞ

## 佳作

### みんなにたすけあい

北園小学校 四年 薄井 鞍人

「いたいよ。」  
どこからかなき声がきこえた。  
ころんでしまった子をたすけてあげて、  
ほけん室までつれてって  
いい気持ちになった。  
たすけてあげたらそれがたすけあいなんだ。  
自分が転んだとき  
たすけてくれた相手がたすけてくれた。  
たすけあいはずごく大切。  
おたがいさまなんだ。





## 心のぬくもり

西小学校

四年

向中野

叶

聖

「ありがとう」

「ごめんね」

「すごいね」

「よくがんばったね」

と言われると

心がほんわかして うれしくなる

がんばっている時

つらい時

あったかい気持ちになる

あったかい言葉をかけられると

心がぬくもり 笑顔になる

心がぬくもり 元気が出る



## 同じ顔

東小学校

五年

高

橋

翔

太

一人でいた友達に

「いっしょに遊ぼう」と声をかけると、

うれしそうな顔になった。

その顔を見て

声をかけて良かったと思った。

ぼくも友達から

声をかけてもらった時は

うれしかったから

その時も同じ顔だったのかもしれないな





## 親切な心

東小学校 四年 斗と澤ざわ悠ゆう我が

お母さんと買い物に行った時

レジでならんでいたら

前のおばさんがお金を落とした

ぼくがすぐに拾ってあげたら

「ありがとう」と言ってくれたので

うれしかった

お母さんが買い物から帰る時

「この間、お兄ちゃんも同じ親切をしてたよ」と言ったので

ぼくはお兄ちゃんと親切な心が

つながっているみたいで

とても うれしかった



## お姉ちゃんのやさしさ

深持小学校 四年 中野渡なかのわたり創そう太た

お姉ちゃんは

お父さんお母さんが仕事でいないとき

ごはんを作ってくれる

買い物の時にジュースを買ってくれる

時どきおかしをわけてくれる

勉強のわからないところを教えてくれる

だけどぼくは

お姉ちゃんに何もしてあげられない

お姉ちゃんのやさしさをみならいたい



中学校の部

優秀賞

助けたいけど助けられない思い

三本木中学校 一年 齊さい下した颯さつ姫き

私は声をかけることが苦手だ。  
困っている人がいると、  
どうすればいいのか  
分からなくなってしまう。  
「はずかしいな助けてあげたいな。」  
でも、一つの勇気でありがとうが生まれ、  
私も幸せになる。  
「これから勇気を出して声をかけよう。」

講評

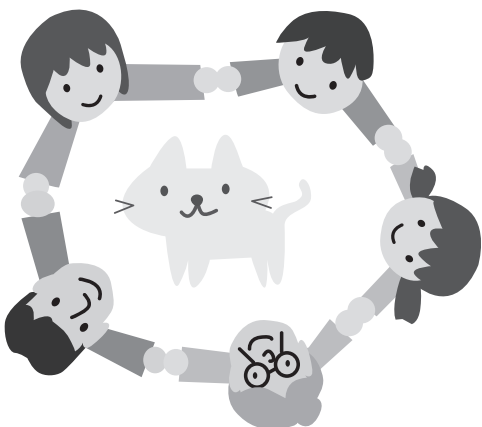
助けたいけれど、どのように、どういう言葉をかけたら良いのかと、迷うことがありますよね。自分も苦しかった思いを抱えている人なら、余計に迷うのだと思います。恥ずかしさに打ち勝つ一つの勇気からありがとうが生まれ、声をかけた方もまた幸せになる。なんとという温かい循環でしょうか。これからの勇気に期待します。

優良賞

生き物のおもいやり

三本木中学校 一年 堀ほり井い実み莉り

人には  
おもいやりがある  
動物にも  
おもいやりがある  
物にも  
すべてにおもいやりがある  
おもいやりには  
人の心をおだやかにする  
思いがある





## 私の強み

三本木中学校 一年 花<sup>はな</sup>松<sup>まつ</sup>遥<sup>る</sup>愛<sup>あ</sup>

人を見た時、

相手を区別しちゃう人もいる。

世の中には、いろんな人がいる。

そんな時、

その教室、もしくは、学年、世界中に

必ずあなたの味方はいる。

そう思えば、なにも怖くない。

人は

「ふれあい」「おもいやり」「助け合い」ながら

生活していくのだ。

さて次はあなたの番だ。

困っている人がいるなら、

自分も助ける覚悟があるか。



## 一人じゃない

三本木中学校 一年 高<sup>たか</sup>田<sup>だ</sup>侑<sup>ゆ</sup>輝<sup>き</sup>

本当の気持ち

言葉にしないと分からないこともある

でも、

相談できる人がいない

そんな君へ

『大丈夫。』

必ず誰かがいるよ

私もそうだった

『大丈夫。』

一つずつ

幸せになろう



